

# やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	7 / 1961 / 29
タイトル	研究発表会(植物部門)
著者名	中村章子

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

# 研究発表会（植物部門）

2年 中村 章子

第14回生徒理科研究発表会は10月1日弘前市に於いて行なわれました。大きく小学校、中学校、高等学校の三つに分け、さらに高校は新築したてで鉄筋コンクリート三階建の県立弘前中央高校において、物理、化学、地学、動物、植物の各部門に分かれて、研究発表が行なわれました。

我が生物部からは

植物部門 鳶沼周辺に於ける地表面の植物相について 山内美弥子 外8名

動物部門 鳶沼に於けるフランク톤の日周活動一主にゾーミジンコ 今田 亮 外

以上の2項目を発表することになりました。

私は植物部門にだけいたので、植物部門についての内容を書きます。植物部門には、山内と私の二人で居ました。私達の外に、あと他校の研究発表生並びに傍聴生が、およそ二、三十人居り、その他、審査員として弘大の教授が審査して居りました。植物部門の研究発表内容は、

- |                          |         |
|--------------------------|---------|
| 1. シロツメクサの時形             | 弘前学院聖愛高 |
| 2. 植物の非気ガスと発芽との関係        | 弘前中央高   |
| 3. 原形質の透過性について           | 田名部高    |
| 4. メヒシバの根地性と生長素の関係       | 弘前中央高   |
| 5. アルコール発酵における濃度と温度の関係   | 田名部高    |
| 6. 各種市販石鹸の大腸菌に対する殺菌性について | 野辺地高    |
| 7. 鳶沼周辺に於ける地表面植物相について    | 青森高     |

以上の7項目でした。研究発表が少ないので、今年は研究発表が少ないので、今年は、時間を制限せず、発表者の気のままにさせたのが特徴かも知れません。どの発表も一生懸命によく調べたもので、私達が普段なんでもなく思っていたり見たりしているものに対しても、さまざま、おもしろい所や、成程と思われる所が、たくさんありました。我が部の鳶沼周辺に於ける地表面植物相は、一番最後に発表になりましたが、発表者山内さんも熱弁をふるっての発表でした。又、室谷先輩も傍聴してきて、「フォーム、なかなか良く調べたね。」と話したりしていました。

全部の発表が終り、結果は次のようでした。

- |                         |         |
|-------------------------|---------|
| 第1位 鳶沼周辺に於ける地表面の植物相     | 青森高     |
| 第2位 アルコール発酵に於ける濃度と温度の関係 | 田名部高    |
| 第3位 シロツメクサの時形           | 弘前学院聖愛高 |

我が部の発表は、予想以上の好成績で、遂に1位になったのです。我が部のテーマは、外のものに比べてスケールが違ふし、それに個人テーマではなく、共同のテーマですので、全員一致の協力がなによりも、ものがいったと思います。発表前一週間位までは、テンヤウンヤと、みんなが一生懸命にチャートを書いたり、植物名を調べたり、統計を出したりして、それはそれは忙しい思いをして、みんなが一丸となった甲斐があったからこそ、1位になれたのです。武田さんも、この発表には、一生懸命になって加勢して下さいました。「山内、早く原稿をまどめろ、あと一週間しかねはで。」というと、「したて、まだ結果まとまってるまねもの、それ調べてしまわねうち、まどめられねもの。」と、こんな応答を繰り返したりして、やっと発表までこぎつけた訳ですから、その喜びようも、格別です。友にはともあれ、みんなが一丸となってやったからこそ、こんな結果が出たんだと思いますから、今後のクラス発展のために一人一人の部員が、あるテーマにぶつかって来て、そのために惜しみなく力を発揮するよう努力することを望むしたいです。